〔二四六〕 通鑑には此の賀正使に就きて「使者入賀正」と記し、其の下に注して（此回鶻使者也）としたれども、此の考は註者偶然の過誤に非れば則ち全然誤解にして、當時回鶻の賀正使の唐に來る可きに非るは曰ふ迄も無ければ、固より舊書の記せるが如く、正を賀する室韋の使を指したるものに外ならず。

〔二四七〕 新唐書回鶻傳には遏捻等が黠戛斯の爲に捕へられたることを記さず、只「遏捻懼、挾妻葛祿子特勒毒斯、馳九騎夜委衆西走」と記せり。

〔二四八〕 茲に七姓室韋と記さるゝものは、新唐書には室韋七姓とし、通鑑には只だ「室韋分回鶻餘衆爲七、七姓共分之」とし、而して之に註して「室韋有嶺西部、山北部、黄頭部、如者部、婆萬部、訥北部、駱丹部、凡七姓、悉居柳城東北云々」と記せり、然れども通鑑の此の註記は、新唐書室韋傳に、柳城の東北に處ると記したる室韋の八姓に就きて、其の大如者部、小如者部の二部を合して單に如者部とし、之を室韋七姓、若しくは七姓室韋に該當せしめんとしたる迄にして、果して當を得たりや否やは、固より疑問に屬す、白鳥博士は室韋考に於て「兩唐書に此の七姓を白地に黑車子とは記してないが、其の文勢をよく玩味して見ると、何としても黑車子としか思はれない」（史學雜誌第卅編第二號一八頁）と斷ぜられたり、或は然らん。

〔二四九〕 此の事は Bretschneider が Mediaeval Resarches I. 227. に既に推論せる所なり。

〔二五〇〕 Ibid.

〔二五一〕 成吉思汗實錄卷八に據る。

〔二五二〕 唐書葛邏祿傳。

〔二五三〕 突騎施の衰ふるや、一部は回鶻に附したりしが、回鶻破滅の際、突騎施部に特麗勒といふものありて焉耆城を保ちしこと唐書突騎施傳に見ゆ、思ふに此の特麗勒と曰ふものも龐特勒の誤なるべく、而して實は回鶻の龐特勒を誤りたるものに外ならざるが如し。

〔二五四〕 新唐書回鶻傳。